広報かがみの 8
2018年8月号 第162号 毎月1日発行

シリーズ 第99回

江戸時代の特産物

鏡野町の特産品といえば、ヒラメ（アマゴ）、姫とうがらし製品、葉わさび、ウランガラス製品、木材、トマト、山菜おこわ、お茶、などさまざまですが、江戸時代の鏡野町域ではどのようなものが特産品だったのでしょうか。

津山藩主の森家の記録である「武家聞伝記」には、鏡野町域の特産として、村ごとに次のようなものが挙げられています。

越畑村「杉丸太」、公保田村「樋竹」、久田村「鮎・石灰」、中谷村「茶・樋竹」、才原村（上齋原・下斎原）「杉丸太・木地・栗丸太・栗板・葺板・鳥もち」、井指（湯指村）「舟薪」、奥津村「白土」、女原村「独活」、富村「炭」、大成村「皮付ノ炭」、村以外の産物としては三国仙（上齋原）「独活」、無量寺（入）「榧」

となっています。「樋竹」とは、表面に溝が入って中身が詰まった希少な竹で、茶杓の材料などになります。「木地」は木で制作した椀や盆・柄杓などの木製品、「葺板」は屋根を葺く板、「鳥もち」は、樹皮や果実などから作った粘着性の物質で、鳥や昆虫などを捕まえるのに使われたもの、「独活」は山菜のウドのことです。

この他にも、『作陽誌』に掲載されるものとして、越畑や上齋原・奥津・富は「巨木良材を出す」、安尾山（上齋原村）「山独活を産すること量多し」、土肥谷（上齋原村）「杉木多く、山民木を伐りて板を削る」、恩原「独活・蕨薇を産す」、扇山（上齋原村）、嗅谷（奥津川西村）、井内山（長藤村）、扇山（富東谷村）、大阿曽宇山（富西谷村）では、村の人々が炭を焼いていると書かれており、柯伐山（大村）では「炭を製し薪を樵る」とあります。大奈留山（大村）は、村人に津山藩に納める炭を焼かせるため、一般の人は入ることができない「禁山」とし、ここで焼かれた炭は「富皮附炭」といい、現在の兵庫県川西市一庫付近で焼かれていた、当時国内でも有名な「池田炭」のように品質が良かったとされています。

また、中谷上村と仲間村（富仲間）の境にある松屶には紙師がいて「中谷厚紙」を生産しており、久田川では「アユ・マス・ミゴイ・ウグイ・ハエ・アメ（ヒラメ）有り」、土生村には銅を産出する鉱山があったようで、近くの久田下原市場において苫田ダム建設に伴う発掘調査で見つかった江戸時代の銅の製錬所跡（札ノ尾遺跡）がこのことを裏付けています。

この他にも、山間部においては「たたら製鉄」も盛んに行われていたと思われますが、たたら製鉄を行う集落（山内）は、村の社会とは隔絶した組織であったため、これらの記録には省かれていたのかもしれません。

こうして概観すると、江戸時代の特産品の中には川魚、山菜、木材、茶など現在でも特産品とされているものが多くあります。木炭生産も近年復活の兆しが見えており、古くから地域の経済や産業を支えてきた産物が、時代を超えた現在でも特産品として親しまれているのは、地域の人々と恵まれた自然環境の力が大きかったことを感じます。

ひらめ

山ウド料理

中谷の茶畑

参考資料：『岡山のアーカイブズ1』『鏡野町史 通史編』『作陽誌』「札ノ尾遺跡」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書

協　力：鏡野町産業観光課

生涯学習課　日下
電話(0868)54-7733

〒708-0392 岡山県苫田郡鏡野町竹田660 鏡野町くらし安全課 TEL0868-54-2780
【鏡野町のホームページアドレス】http://www.town.kagamino.lg.jp/